

---

◎議案第56号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第2、議案第56号 平成26年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第56号は、平成26年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（健康福祉課長 高木和彦君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

○5番（藤井 要君） 高額医療の関係が800何某でしたか、8000でしたか、ちょっとページ数があれですけども、高額医療、これは何人かいるわけですけども、だいたい何人と、一番えらくかかっている金額がわかりましたら、教えてもらえますか。

○健康福祉課長（高木和彦君） 1カ月の入院で500万円を要した方がお一人いらっしゃいました。あとは300万円くらいの方が年間で7～8人だったと記憶しております。その辺がちょっと・・・。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○6番（福本栄一郎君） ちょっと教えてくださいませんか、27ページの真ん中に委託料の中のシステム等改修業務委託159万8400円、これを教えていただけませんか。

○健康福祉課長（高木和彦君） 国民健康保険はいろいろ制度が変わることが多いものですから、まず、委託費の中のシステム改修159万8400円のうち、バージョンアップといってシステムの機能を高める工事の委託が99万9000円でした。

あとは制度改正がありましたので、それについて30万2000円、あとは法改正に対応するものとして29万7000円がこの中に含まれております。

○6番（福本栄一郎君） それはわかりました。総務課長がいなくても、このTKCの会社、一般会計しかり、特別会計の国保、水道、温泉、みんなそうなんですよ。どっちかというと1社独占という・・・、その辺の・・・、工事だったら入札あるいは見積り等々で安い金

額をやりますよね。だけどここの辺の考え方、これはちょっと総務課長はいませんので、担当課長の範囲で、わかる範囲でいいんです、それが1点と、あとはもう1点が、決算認定ですから、来年度に向けての予算の反省というか・・・、それは程度もあるんですけども、国保会計があと2年後ですか、県の一元化ですか、その辺の動きですか、その辺がわかりましたらば、わかる範囲で結構でございますので教えていただけませんか。

○健康福祉課長（高木和彦君） T K C のシステム改修というやつは私も非常に気になるところで、よく担当には全国的に同じものを作っているから、開発費が2億円かかったら2億円、それを200社が使っているなら、そのうちの200分の1でいいじゃないかと、明細を見せろということはよく言っています。それについては、またほかのシステムも関係するもので、それは私が普段感じることです。

今回のこのシステム改修という、この国保の方は、国保連とか、そちらの方と情報、給付費だとか何とかが連動しているシステムで、ちょっと国保連の・・・、T K C の方とは関係なくて、日本プログラムという会社との、国とのやり取りのプログラムですので、ご承知ください。

それと、今後の国保の動きです。一番最初は国民健康保険については、静岡県内でも住んでいる場所によって保険料が違うと、これについてはおかしいんじゃないかというのが話の発端です。これから継続して医療、介護を受けられるという改革の中で、じゃあ、保険者を静岡県、県にしようという形になっています。

それで、これからの内容ですけれども、今まではかかった医療費について町で・・・、実際には国保連でやるんですけれども、町の方でかかった医療費を国保会計からお支払いする形でしたけれども、今度は県の方がもう全体、一括して医療費の方にお支払する形になります。

町は何をやるかという、県の方からこれだけのお金がかかったから、これだけの国保税を集めなさいよというような形が町の方におりてきます。町はその与えられたというか、いくら集めなさいよという金額を町が徴収して、それを国保連に納める。

あとは、国保というのは非常に身近なものですから、保険証の発行ですとか、そういうことは町の方がやって支障がない形に工夫がされています。まだ決まっていないことがかなりありますので、この内容が決まりましたら、また議会の方にもご報告したいと思っております。

○6番（福本栄一郎君） 隣に窓口税務課長さんがいますので、ちょっとお伺いしますけれども、賀茂地区広域連携会議の中で、各市町を共同化ということで税の収納関係・・・、一般会計

じゃないですけども、一般会計の方ですか、あれは。静岡県滞納整理機構ですけども、こちらの動きもどうなっているんですか。賀茂地区の賀茂広域連携会議の中で、1市5町ですか共同できるのは。例えば監査であるとか、いろんな面で、特に税金の収納ですか、滞納整理、その辺の動きはどうなっているでしょう。教えてください。

○窓口税務課長（山本稲一君） 現在、賀茂地域広域連携に向けまして、専門部会を開催しまして、税の関係につきましては確か3回ほど終わっておりまして、10月に第4回目が開催される予定となっておりますけれども、賀茂地域の1市5町の同意が得られたということで、設立準備会の方を立ち上げまして、これからその詳細について詰めていくことになっておりますけれども、一応28年4月スタートを目指しておりまして、その賀茂地域の広域連携した徴収業務の共同化においては、一般会計の町税はもちろんですけども、国民健康保険税についてもそちらの方で一緒に徴収をしていこうというようなことでございます。

それから、県の方には滞納整理機構がございまして、滞納整理機構の方で受けるのは向こうも職員が限られていますので、件数が、うちの町の場合ですと10件というようなことで割り当てられております。滞納整理機構の方で行うのは、時間とそれから手間を要するものについて機構の方で行いまして、賀茂地区の連携した共同徴収の中では、スピードと量に重点を置いてやっていこうというようなことで、いま会合がもたれております。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） ちょっと確認というか、教えていただきたいことがあるんですけども。資料の30ページの隣に疾病統計から見る松崎町というのがあるんですけども、県平均というところで、その下に新生物の絞り込みというのがございます。その中に・・・、ぼくはがんというのは全部悪性だと思って、それで保険はみんなそれで対応されると思ったら、良性というのがあるんだそうですね、そのがんの中に。それは、一般生命保険のがんの対象にならないということらしいんですけども、まず、この資料の中で松崎町の新生物・・・、良性の新生物の方は何人おられるのかと、その良性と悪性では保険の取扱いが違ってくるのかどうか、その辺をちょっと教えていただきたいんですけども。

○健康福祉課長（高木和彦君） いま渡辺議員がおっしゃったのは、上皮内新生物ということで、例えば大腸の輪切りがあって、この表面だけちょっと何かブツブツができたよと、ここを簡単に取れば治るというやつが上皮内新生物ということです。これは腸で言いましたけれども、胃でも何でも内側まで浸透しない状態、それで取ればすぐ直る小さいがんのことをそうい

うふうな表示をします。それがもっと深く入って、腸の外側まで浸透しているとリンパなんかを通じてほかの方にも転移するよというのが悪性新生物ということになります。そういう説明でよろしいでしょうか。

○2番（渡辺文彦君） ぼくの知り合いの方が、この良性ということで中伊豆のリハビリセンターにいますけれども、この方が、がんの対象が悪性でなければ出ないことで、保険の対象にならないということらしいんですね。ここのこうやって資料が出て、数字が出ているもので、町もそれに対して負担しているのかなということで、それが悪性と良性で町の負担分が変わっているのかどうか、その辺をちょっと。

○健康福祉課長（高木和彦君） 友人の方が言っているのは、生命保険の上の線引きだと思います。生命保険をもらう上で悪性ですと200万円、さっき言った上皮内ですと、例えば20万円だとかという生命保険上の話であって、こちらの国民健康保険については、良性であろうと悪性であろうと、すり傷でも何でもけがをしたときに、病院に罹るときのものがここでいう治療費です。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。が、これに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許可します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第56号 平成26年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

の件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長（稲葉昭宏君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

---